



何が大事か ～コロナ禍とGIGAスクール構想の今～^{*}

富山県小学校長会

会長 白江 勉

教員になって10年過ぎた頃、勤務校の管理職から掛けられた一言「何が大事か」。私が迷ったときに、真っ先に思い浮かべる言葉である。コロナ禍の今「何が大事か」、GIGAスクール構想実現後を見据えて「何が大事か」考えてみたい。

6月、臨時休業から学校が再開された。子供たちにとって何が大事か、自問自答した。私の答えは、「力を合わせて楽しい学校」だった。多くの子供たちが、学校へ行きたいという願いをもっていた。教職員も、子供たちに会えることを待ち望んでいた。保護者も、学校の存在意義を再認識していた。つまり「学校ロス」を感じていたのである。学校は、子供たちにとっての大切な居場所なのだ。

コロナ禍では、今まで当たり前に行えていたことができない。できないから、全ての行事を中止にすることは、簡単である。学びを保障するために、授業時数の確保が最優先。第二波に備えて、とにかく先に進めるべき。管理職の多くがこのように考えるのは、至極当然である。

しかし私は、そこには何が大事か、学校は誰のための学校か、という視点が欠けているように思う。可能な限りの楽しい代替行事が必要不可欠である。

日本教育新聞の社説に「長い2学期」について、次のように書かれていた。「学校行事に挑戦する目標を設定して、子供の学校生活に変化と潤いをもたらす。それが長い2学期を無事に乗り越えるための先人教師たちの知恵だった。今年の2学期は行事も少なく勉強だけの日が続く。残暑の厳しい8月下旬から学校生活が始まり、その疲れは次第にボディーブローのようにきいてくるだろう。それは教師も同様だ。秋風

とともに疲れがたまっていくかもしれない。」全く同感である。学校ロスを感じていた子供たちが、変化と潤いのない学校生活に出会ったとしたら、裏切られた気持ちになるかもしれない。

GIGAスクール構想実現後の新しい教育の在り方も、大きな課題である。何が変わり、何を準備しておく必要があるのだろうか。私見ではあるが、スピード変化への対応力が、まず求められるのではないかと予想している。例えば、現在のグループになって話し合い、ミニホワイトボードに記録して、前に出て発表する授業場面を想像してほしい。今後、一人1台のタブレットを活用すると、子供たちの入力した考えが、すぐに大型モニターに映し出される。どの考えを最初に取り上げ、どのように展開していくか素早く判断する力等が求められ、授業のテンポは確実に上がるだろう。

しかし、ここで間違っはいけないことは、タブレットが導入されれば全て上手くいくという妄想である。機器を扱うことから、学習規律が今以上に大切になる。学級全体の子供たちを見る力も磨かなければならない。つまり、子供たちの状況を瞬時に把握し、指導する力は変わりないのである。

大きな変化の今、未来を創造する子供たちの礎を築く教員として、時代の流れを感じながらも、強い信念をもって子供たちに向き合いたい。

※GIGAスクール構想

児童生徒向けの一人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された創造性を育む教育を、全国の学校現場で持続的に実現させる構想